

令和5年
6/24
(土)

ふくいきらめきフェスティバル2023での学び

6月24日福井県生活学習館において、“ふくいきらめきフェスティバル2023”が開催され、会員23名が参加しました。今年のテーマは「あなたらしく自分らしくともに輝こう～未来を変える学びの場～」でした。

オープニングは福井大学と福井県立大学アカペラサークルの皆さんで、その美しいハーモニーにはすっかり魅了されました。

記念講演は株式会社朝日新聞出版木村恵子氏による『「自分らしく」を楽しく！』でした。氏は1999年朝日新聞社に入社後いろいろな分野で幅広く活躍され、現在「AERA」編集長をされています。講演の中で、キャリアもプライベートも自分の興味に従ってきたこと、管理職は、できないではなくやってみようと思ったとのこと、自分の「こうしたい」を大事にしてきたことを話されました。また、編集長職を受けるにあたっては、人によってやり方はさまざまあるので柔軟なやり方を模索し、先に不安要素で埋め尽くしたりせず自分らしいリーダー像をと考えられたそうです。そしてこれからは社会や会社の変化、女性の意識変化も必要だと主張されました。

自分は何に向いていて、どんな働き方が合っているか、快適と思うのは何か、出産を希望するならいつ産むかなど、時々意思確認しながら自分らしく楽しく生きたいと願う、そのような講師の行動力としなやかな生き様は女性の生き方について考える機会になりました。

記念講演後は昼食、そして各種体験講座がありました。私達は、映画「最高の人生の見つけ方」を鑑賞しました。余命宣告を受けた主婦と女性経営者の二人が、入院中知り合った女の子の残した「死ぬまでにやってみたいこと」を共にやり遂げるうちに、生きる意味や喜びに気づき、最後には幸せな人生を全うできたという映画で、何事も前向きにポジティブに生きることの大切さを考えさせられました。

元気を貰えた講演会や映画に、癒され、さわやかな気持ちで帰路に着きました。





令和5年
10/16
(月)～

自主研修会の開催

本年度は、国立女性教育会館(NWEC)が開催した「男女共同参画の視点による災害対応研修(オンライン)」から、2講義を選定し、2回に分けて学びました。10月16日に初回「わたしたちの日常に男女協働参画の視点を組み込む」を、2回目は11月20日に「災害対策に求められる“多様な視点”とは～誰ひとり取り残さない社会のために～」をそれぞれ視聴し、その後意見交換を行いました。

地震に火事、飛行機事故、令和6年の幕開け

の衝撃的な始まりに、人々は災害のその大きさに胸を痛め被災者の安寧と無事を祈るしかありませんでした。その中で聞こえてきたのは災害弱者にとって過去の教訓が生かされていない事です。「緊急対応は男性」という概念の転換が進んでおらず、女性視点の欠落は細かなニーズの把握や必要な備蓄につながっていない事です。災害は忘れた頃に違う形で起きることをふまえ、きめ細かい対応での訓練が必要だと改めて思いました。



編集後記

令和5年度は、創立30周年記念事業を最優先に展開してきましたが、振り返ってみると多くの行事を円滑に実施することができていました。本紙の編集についても、当初は掲載記事不足を懸念していましたが、最終的には多彩な内容となり、ほっとしています。令和6年度も、当会の活動を凝縮した広報紙としてお届けしますので、ご期待ください。

お知らせ

〇つるが男女共同参画ネットワーク
令和6年総会・講演会
・日時：令和6年4月25日(木) 13:30～15:00
・場所：敦賀市立図書館

〇ふくいきらめき
フェスティバル 2024
・日時：令和6年6月8日(土)
・場所：大野市(結とびあ)

加盟団体

- 敦賀市女性の会
- 敦賀市婦人児童福祉協議会
- 国際交流はぎの会
- 敦賀更生保護女性会
- 敦賀市消費者連絡協議会
- 敦賀市食生活改善推進員連絡協議会
- 福井県民生活協同組合第3地区本部
- ソフィアつるがの会
- 福井県退職公務員連盟敦賀支部

【募集】新しい団体・個人の加入をお待ちしています。

会長からのご挨拶

令和5年度も戦争はもとより、大災害や心痛む事件、辛い人々が多い中、間もなく新年度を迎えます。当ネットワークにおいては、平常の活動を取り戻し、計画どおりの事業を行いました。皆様のご支援、ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

今年度は設立30周年、質素であっても記念のつどいの開催と運営に、スタッフ一同は心ひとつに努力しました。多数のご参加いただき感謝いたしております。意義ある行事を終えた今、つくづく思います。仲間と一緒に活動、研修で

きる機会、何と尊く貴重なことだろうと。社会は益々高齢化、孤立化になりつつあります。人とながり、語り、力を合わせて声をあげ、目標に向かい、一歩でも半歩でも進むそんな楽しさを味わうことは、ネットワークの目標でもあるのです。

近年、知る、学ぶチャンスはあちこちにあふれています。今後共ネットワークの学びへのご参加を、心からお願い申し上げます。



(籠 直子)

令和5年
4/28
(金)

定期総会を開催

4月28日、市立図書館(3階研修室)において、令和5年総会を開催しました。本年度は、創立30周年記念事業を控え、来賓として山本市民協働課長補佐のご挨拶を頂きました。

籠会長のご挨拶に、社会学者上野千鶴子氏の記事「女性に、弱者に安心を。老いとは、ものが分かるようになること。すなわち進化であり、考えず進んできたことを考える。」を引用され、力強い言葉で話されたのが、心に響きました。



【定期総会後の学び(概要)】

令和4年10月1日からパートナーシップ宣誓制度をスタートした越前市が、令和4年12月11日に開催した「宣誓制度導入記念講演会～誰もが自分らしく暮らせるまちへ～」の様を視聴。内容は、仁愛大学の織田暁子准教授の講演「パートナーシップ制度の意義」、越前市からの制度の具体的な説明でした。

人にやさしいまちを目指している敦賀市においても、令和5年11月1日に「パートナーシップ宣誓制度」が施行されました。

令和5年
5/29
(月)～

男女共同参画推進パネル展で活動紹介

5月29日から6月16日まで、オルパーク1階と市庁舎で敦賀市が実施した「啓発事業」において、推進組織である当会の活動紹介パネルを掲示しました。



男女共同参画推進への理解を深めていただき、当会の活動に共感していただければ、幸いです。



森下前会長が功労者知事表彰を受賞

6月24日ふくいきらめきフェスティバルの式典において、当会前会長の森下好子氏が「福井県男女共同参画社会づくり功労者知事表彰」を受賞されました。



令和5年
5/5
(金)

子どもの日イベントに参加

5月5日、「こどもの国春祭り」で敦賀市（市民協働課）主催の啓発活動があった。今回の目的は「共家事チェックリスト」を使って家事の共同化を意識してもらうことだった。会場が建物の2階であったためか、初めは来訪者が少なかったが、昼頃から屋内に入ってくる人が増え、最終的に550人の参加で190組のアンケートの回答を得ることができた。

保護者がアンケートの回答をしている間、子どもたちのために輪投げやお菓子釣りなどの遊び場所を設けてあったが、アンケートの量が多く、回答に時間かかったため子どもが退屈したのではないかと申し訳なく思った。しかし、ご夫婦で熱心に相談しながら回答されていた様子を見ると、今後の家事分担に反映してもらえないのではないかと、この活動をしたことの意義を感じた。



令和5年
6/15
(木)

「男女共同参画啓発の街頭キャンペーン」活動の実施

6月15日 男女共同参画月間にあたり、ハーツ敦賀店で街頭キャンペーンを行いました。当日は、梅雨入りしたものの穏やかな天候で、また、シルバーデーでもあり、多くの買い物客が訪れていました。市民協働課職員と会員合わせて8名が「男女共同参画」のタスキをかけ、のぼり旗をたてて、啓発のチラシやネットワークの広報紙等を配りました。およそ1時間で200部を配り終え、「男女共同参画」についての啓発活動の意義を感じることができました。コロナは落ち着いてきましたが、物価高など暮らしにくい面もある中で、今回のキャンペーンに参加して、誰もが暮らしやすい社会の実現を強く願いました。



令和5年
11/6
(月)

DV防止取組に参加して

理事会終了後の時間を活用し、DV防止啓発イベントのパープルの木作りに参加しました。去年は作業が何日も続き、本当に大変でしたが、今回はとてもスムーズにはかどり、1日で終わってしまいました。作業中に理事の皆さんと和気あいあいに色々とお話しでき、とても楽しいひと時でした。出来上がったものは紫の塊が美しく、なかなか見ごたえがあるものになりました。11月12日～11月25日は、「女性に対する暴力をなくす運動期間」です。このパープルの木は、11月13

令和5年
8/1
(火)

市民公開講座を開催

8月1日、市立看護大学において、市民講座を開催しました。敦賀高校生の参加もいただき、予想を上回る人数でした。講師の鈴木隆史氏は、琉球大学で学ばれ、愛知県などの大学で研究、福井県立大学を経て、10年前に敦賀看護大学に着任されました。

机上に配布された資料は図解が多く、鮮明で、貴重でした。全体を通して、健康や病気の予防についてのお話は、自分の人生の進みゆく道の基盤として改めて認識しました。内容は、



- ・高齢者の身体と心について
- ・笑いの機会が少ない人の特徴
- ・笑いの科学と健康効果

笑いは空気の量を多く取り込むこと
下腹の筋肉を使うこと
免疫力アップ ホルモンバランス改善
血糖値調整
ナチュラルキラー細胞の活性
自律神経の安定
ストレス解消 集中力アップ
腹筋、横隔膜を鍛える

などで、「笑いは副作用のない薬です」と説明されました。

また、高校生と同じに、机上で小さなかざぐるまを息で回す（細く長く息を吐き続ける力）体験もしました。そしてひとりでできるパタカラ体操（口の訓練）も学びました。

笑いが健康によいということは知っていましたが、何となく・・・でしかありませんでした。

明確な笑いの効用を学ぶことができ、今後の暮らしに生かしたいと思いました。



日～11月27日にオルパークにて展示され、その後、こどもの国、総合運動公園に展示されました。たくさんの方に見ていただき、心に留めていただけることでDV防止の取り組みが広がることを願いました。



令和5年
9/30
(土)

創立30周年記念のつどいを開催

つるが男女共同参画ネットワーク創立30周年記念のつどいが、9月30日（土）、あいあいプラザ2階ふれあいホールで開催された。

増田事務局長の開会のことばを皮切りに参加者全員で敦賀市歌斉唱、敦賀市男女共同参画宣言を唱和。籠会長は挨拶の中で30年の歴史と苦労を万感を込めて話された。



来賓の祝辞では米澤光治市長が平成5年敦賀女性ネットワーク設立からの“あゆみ”を絶賛され男女ともに自分らしく生きていく、また、すべての人が活躍できる敦賀を願っていると今後の期待も寄せられた。馬淵市議会議長の祝辞では、日ごろの活動の賞賛と敦賀市議会でも男女共同参画について議会運営にも取り入れているとの報告もあった。



ひき続き森下副会長から、30周年の歩みをスライドで紹介。一枚一枚にネットワークが市民に呼びかけ活動する姿が映し出され、実践の重みを感じた。

令和6年
2/22
(金)

市長と語る会の開催

2月22日、「市長と語る会」が開催され、男女共同参画ネットワークの理事10名が参加した。理事たちはそれぞれが属している活動団体の抱えている問題や男女共同参画のあり方についての考えを述べ、それに答えていただいた。

◎女性の活躍の場を広げる要望に対して
☞女性のUターン率は男性より低い。その一因として、女性が田舎に帰りたくないということがアンケートにある。なぜかというと田舎の方が女性の地位が低いからだという。その意識改革のためにも敦賀で活躍している女性を知ってもらう事は大事だと考えている。

◎活動団体の高齢化と後継者問題に対して
☞友だちに声をかけて団体を作れば同年代になる。会を維持するためにはコツコツと実績を作って続けていくことが大事なので、うまくいっている団体から学ぶことも良いことである。例えば奈良県生駒市の場合、今60代以上の方たちは、反行政の方も多かったようだが、市民活動をしているうちに行政と協力して問題解決に当たることもあり市を盛り上げようとしているようだ。また、横のつながりも大切だと感じている。

記念講演は川村俊彦氏による「近代敦賀の歩み」と題してのお話があった。明治初期から港と鉄道が発展して敦賀港が『東洋の波止場』として躍動していた事。大正から昭和にかけて光と影の時代であった事。ユダヤ難民を受け入れた“人道の港”としても歴史に挙げられ昭和20年の敦賀空襲の記録を切々と話された。平和を祈る今日、深い思いも伝わってきた。



最後に『これからの敦賀を担う高校生のチャレンジ』と題して敦賀高校生の活動が報告された。人道の港敦賀ムゼウムでのガイド活動や食での「ツルシチ」の開発やポーランド研修などの取り組みに敦賀の将来を担っていく高校生の力強い行動力と実践に感動と期待を込めて拍手を送った。



平成17年度『敦賀市男女共同都市宣言記念式典』では、ピアノ陽楽会の子ども達が市民と共に「敦賀市男女共同都市宣言」を唱和する発表の舞台があり、宣言の最後の“このまち敦賀が好きだから”はいつまでも心に残っている。

2024年3月には北陸新幹線が敦賀まで延伸されます。“住みよい町、心豊かな町”であることを祈り、ネットワークの輪が広がっていけることを願っている。

◎高齢者と子どもたちが一緒に活動できる場の要望に対して
☞敦賀市役所に高齢者、子どもの部署はあるが、それを繋ぐところはないので今後考えていきたい。

◎福井県民生協からの「行政と連携する事で、地域の問題解決に役立ちたい」という提案に対して
☞能登の震災時にも、生協が全国的なネットワークを生かして避難所のサポートを行っていた。災害が起きてからではなく日頃から話し合っておくことは大切だと考えている。

◎災害時の対応、女性の視点について
☞今年1月の地震で津波警報が出された。市民の避難について問題点を整理し、何らかの形でお知らせしたいと考えている。また敦賀市危機管理対策課は、地震のほかにも台風や大雨など24時間対応が求められる部署だという事から、女性職員の配慮がなかったかもしれない。避難所の運営など女性の視点が必要だと考える。



いくつもの意見に対して米澤市長は真摯に答えてくださった。我々もできる限りの協力をして誰にも優しいまちを作りたいと思った。